

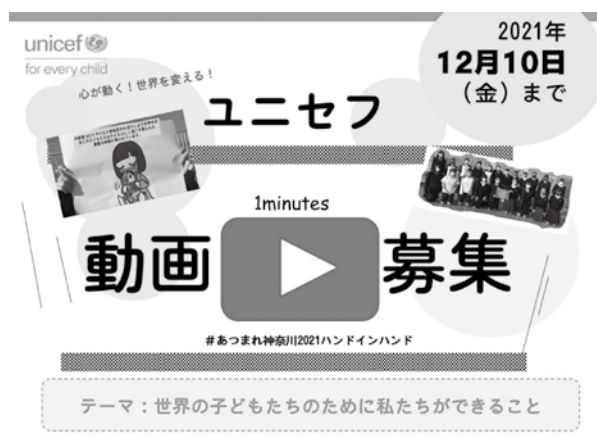
学習
支援

コロナ禍でもできることを！ ユニセフ活動を実践して学ぶ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、子どもたちの学校生活もさまざまな制約が生じています。ユニセフの学校募金活動も難しくなっており、学習の成果発表の場も少なくなっています。

そこで、子どもたちが自主的に参加できる場として「ユニセフ1 minutes動画」募集を行いました。

コロナ禍の子どもたちの活動の場 「ユニセフ1minutes 動画募集」



2021年9月28日～12月10日まで、チラシや県協会ホームページ・SNSなどで広報をし、41件の応募がありました。（※うち33件は、よこはまこども国際平和プログラム子ども実行委員会の皆さん）

応募動画は「#あつまれ神奈川2021ハンドインハンド」（P4参照）で公開しました。

自分たちの思いを届けたい！

クラスや、生徒会、委員会、個人と多彩な参加があり、校内ユニセフ募金の様子を映した作品・楽しいお芝居・学習成果の発表・自分たちの思いを伝える作品などさまざまな工夫がされていました。多くの学校でSDGsに関連したテーマでシナリオを考え応募いただきました。

また子どもたちが自ら企画から編集まで行った学校も多く、視聴した方から「一生懸命発信している様子に心打たれた」とのコメントもいただき、子どもたちの思いがこもった動画が見る人に伝わる企画となりました。

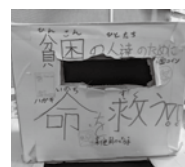


委員会や生徒会が調べ学習をもとに動画を作成（写真は横浜市立上飯田中学校生徒会）

横浜市立幸ヶ谷小学校 5年2組の取り組み

横浜市立幸ヶ谷小学校5年2組は総合の時間に世界の貧困問題を学習し、「困っている人を助けたい」という気持ちから、問題や課題を詳しく知るためにユニセフ学習会を年間で3回行いました。

1回目はユニセフの基礎、2回目は募金や寄付について学び、その後「外国コイン募金」「書き損じハガキ・未使用切手募金」に取り組みました。手づくりのハガキ回収箱

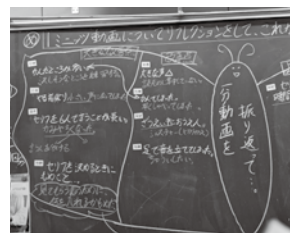


2回の学習会と募金活動後に「1minutes 動画」を作成

「1minutes 動画」を作成するにあたり、自分たちの思いをどう伝えるかを話し合い、見てくれる人のことを考えた動画にすることを意識しました。誰にでもわかりやすく大きな声で話す、耳の聴こえない人のために言葉以外で伝えるなど皆でアイデアを出し合い、動画を完成させました。

最終授業での振り返り

最終3回目は「1minutes 動画についてリフレクションし、これからに活かせることを考えよう」という授業でした。子どもたちからは「クラスで団結できた」「一人でも多くの人に見てもらうため色々考えた」「協力してくれる人が増え、回収箱が重くなるにつれ嬉しさが増した」「真剣に取り組んだので、動画ができた時に達成感があった」「回収活動をしているうちに弱い人を助ける大切さがわかった」など感想があり、今後に活かすこととして「自分から行動する」「相手の事を考える」「学習したことを他の人に伝える」などの意見がでました。



最後に「動画が1分じゃ足りなかった！もう1度もっと長く作りたい！」との声があがり、自分たちの学習した成果をもっと発信したいという気持ちが伝わってきました。

学習だけで終わらず、自分たちのできることを考え自主的に行動し、更に深く活動したいという意欲につながる取り組みとなりました。